

第5学年学習指導案（社会科）

1. 単元名『未来とつながる情報 くらしと産業を変える情報通信技術』 5年2組 計35名 授業者 井口 奈美  
授業日時 令和7年12月15日（月）5校時 5年2組教室

2. 単元の目標

- ・情報の種類、情報活用の仕方などについて、聞き取り調査をしたり写真や統計などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、販売や観光などの産業における情報活用の現状を理解し、大量の情報や情報通信技術の活用は、様々な産業を発展させ、国民生活を向上させていることを理解している。  
【知識・技能】
- ・情報の種類、情報の活用の仕方などに着目して、問いを見いだし、販売や観光などの産業における情報活用の現状について考え、表現している。  
【思考・判断・表現】
- ・学習したことを基に、情報化の進展に伴う産業の発展や国民生活の向上について産業と国民の立場から多角的に考えようとしている。  
【主体的に学習に取り組む態度】

3. <研究内容1 教科の本質を見いだす学習構成>の具現化に向けて

本単元では、情報が【効率・正確・素早く】伝わるように工夫され、くらしや産業を支えているという前提のもと、情報の[発信者]と[受信者]、それを支える社会の仕組みに着目して、5年生の社会科で培ってきた産業の学びの構造を基盤とし、情報を活用する産業をその一例として捉える。

◆産業学習との接続と学びの連続性

これまでの産業学習で共通して[条件→工夫→課題→未来]という流れで学習を進めてきた。情報産業でも同様の構図で学びを位置付ける。こうした学習の連続性により、子どもが見通しをもって探究に取り組むことができると考えた。

◆追究の視点がもたらす主体的な探究への導き

本単元では、1時間目において【効率・正確・素早さ】という追究の視点を提示し、単元の学びを主体的に追究できるように見通しを立てる。また、札幌市の公共交通を題材に、情報活用によって社会の課題をどう解決できるかを考える。

4. <研究内容2 協働性を高める場構成と教師の関わり>の具現化に向けて

本単元は、情報産業の学習を通して、探究の視点を繰り返し働かせながら、情報を生かして社会をよりよくする方法を仲間と探究していく。その中で、札幌市の公共交通を題材に、情報をどのように使えば、よい良い未来を創ることができるのかを考える。

◆探究の視点や立場を活用した対話

情報を扱う立場[発信者・受信者]や探究の視点【効率・正確・素早く】を明確にし、同質・異質な立場や考え方の違いを対話の中で実感しながら議論を進める。多様な見方の重なりやずれをもとに、よりよい情報活用のあり方を構想することができると考えた。

◆未来志向で考える土台づくり

札幌市民の一人として「情報によって社会をよりよくする」という思いのもと、情報通信技術の可能性を探る。情報の力で課題を解決したり、便利な社会を創ったりするという構想を練ることで、未来を創り出そうとする意識を生んでいく。

情報産業に携わる人々は、情報通信技術をどのように活用しているのだろう。

- ・1／7 追究の視点・単元の問いの設定  
情報の発展が【効率・正確・素早く】くらしを豊かにする工夫について、単元の見通しを立てる。
- ・2～3／7 個別・協働探究  
1時間目で立てた視点を基に、学習計画を立て、個別・協働探究を行う。
- ・4～5／7 個別・協働探究  
札幌市がどのように情報通信技術を活用しているのか公共交通の事例から市の施策について、個別・協働探究を行う。
- ・6／7（本時）  
札幌市の公共交通の課題を、情報活用でどのように解決できるだろうか。

情報を【効率・正確・素早く】活用できる視点から札幌市の課題を捉え、課題解決のための方法について考える。

- ・7／7 未来に向けた提案発表  
情報活用によって社会の課題を解決し、よりよい未来を構想するために、札幌市民という立場から、情報を使う人の思いや、目的に目を向け、提案発表をする。

## 5. 本時の目標

札幌市の公共交通の現状や課題を基に、情報通信技術を【効率・正確・素早さ】の視点から、課題を解決するための方法について話し合うことを通して、情報活用が社会をよりよくする力をもっていることに気づき、札幌市の未来の公共交通について考えることができる。

## 6. 本時の学習

**おもな学習活動（6／7）**

札幌市では、公共交通の中でどのように情報通信技術を活用しているのか資料を基に調べ、他の情報産業の工夫と関連させながらまとめている。

○資料から公共交通における札幌市の現状について考える。

**現場の声**

運転手も長時間運転が続いている…。

減便で利用者が乗れなくなった…。

**札幌市の未来は…**

情報を生かす札幌の公共交通  
p.10 グラフ

**事実**

5年で便が1803回も減っている。

運転手がどんどん高齢化している。

札幌市の公共交通の課題を、情報の活用でどのように解決できるだろうか。

○情報活用の発展がもたらす効果について考える。

**正確に**

**素早く**

位置を正確に。

バスロケーションシステム

遅延を防ぐ。

さっぽろえきバスナビ

サピカ支払い

バスの状況が分かる。

外国語対応

デマンド交通

他の国の人も。

AI活用で。

**効率的に**

○交通課山本さんの話から今後の情報活用への展望について考える。



定山溪ルートにおいて自動運転の導入を考えています。

自動運転が導入されることで運転手不足は解消しそうだね。

でも安全性には気を付けていかないといけないね。

**情報活用で課題を解決**

情報を活用することで、少ない人数でも交通を支えることができる。

○学習を振り返る。

情報には社会の課題を解決する力があるんだね。

でも自動運転が万能とは限らない、他の方法も考えないと。

高齢者は情報の活用についていけるのか疑問だな。

## 7. 研究内容1・2を踏まえた教師の関わり

バス運転手や一日に走る便数の減少といった事実を表す資料や、市の交通課や運転手、市民の声といった現場の声を提示し、具体と感情の両面から札幌市の現状について捉えることができるようにする。

情報活用が【正確に】【素早く】【効率的に】札幌市の諸課題を解決することを整理するために、探究の視点を思考の軸として、他の情報産業の構造と対比しながら、構造的に板書する。そうすることで、情報活用が人々のくらしや制圧を便利にするだけではなく、社会を支える・解決すると、捉え直すことができるようにする。

交通課山本さんの話から、市が更なる情報活用を試みているということに気づき、未来の社会の在り方について、今後の展望だけではなく、更なる可能性についても考えることができるようにする。

## 8. 評価基準

情報通信技術を【効率・正確・素早さ】の視点から、情報活用が社会をよりよくする力をもっていることに気づき、札幌市の未来の公共交通の可能性について思考することができる。

小単元2「くらしと産業を変える情報通信技術」 単元構想図（7時間扱い）

【学習指導要領と本単元のつながり】

販売や運輸などの産業で、情報通信技術を活用して情報を収集・分析・共有し、効率的で安全なサービスを生み出していることを理解し、情報がくらしや産業をよりよく変化させていることを理解する。

働かせる見方・考え方

情報伝達の流れから、生活の中にも情報が動く仕組みがあることに気づき、情報が動くことでくらしが【効率・正確・素早く】なるということを考えている。

【情報活用の価値】

単元の学習問題をつかむ問い

キャッシュレス支払いで、情報はどのように動いているのだろう。

見方・考え方を働かせる資料・活動

- ・支払い方法の変遷の資料から、変化の背景に情報通信技術があることに気付く
- ・キャッシュレス支払いと家計簿アプリとの連動の資料

【単元の学習問題】

情報通信技術が、くらしや産業をどのように変えているのだろうか。

各産業分野における情報通信技術の活用事例を調べ、くらしを支える工夫について、視点を基に追究している。

【視点を軸とした探究】

各産業分野における情報通信技術の活用事例を調べる中で、情報産業は情報の流れやそれを使う工夫があることを捉え、まとめていく。

【情報産業の構造化】

事実認識を積み上げる問い

- ・集めた情報はどのような流れで伝わっていくのだろう。
- ・集めた情報はどのように活用されているのだろう。
- ・情報を扱う上で、どんなことに気を付けるのだろう。

- ・情報サービスに関する仕事につく人の変化（グラフ）
- ・インターネットで世界中を流れる情報の変化（グラフ）
- ・情報を生かす札幌の公共交通（資料）

- ・資料の読み取りを通して、追究の視点を基に、相互に関連付け、情報活用が生活やくらしに与える効果について考えている。

社会認識のための教材化の視点【公共交通と他産業における情報活用】関連性

情報産業の情報活用の流れや工夫に着目し、札幌市の公共交通における情報活用と関連付けて考えることを通して、地域社会での情報活用を捉え、各産業の関連性について考える。

各産業の関連性について、情報の流れや工夫について整理することを通して、共通点を基に構造化することができる。

【各産業の相互関係】

社会認識を深める問い

札幌市は、公共交通でどのように情報通信技術を活用しているのだろう。

- ・情報を生かす札幌の公共交通（冊子）
- ・さっぽろえきバスナビ
- ・バスロケーションシステム
- ・ICカードの利用
- ・バス利用のアンケート

社会参画のための教材化の視点【持続可能性と未来構想】主体性

札幌市の公共交通が抱える課題をもとに、「情報通信技術の活用でどのように解決できるのか」を考え、情報産業の視点を活用して、札幌市民の一人として課題解決を構想する。

札幌市が抱える社会課題に対し、追究の視点を活用しながら課題解決策を構想し、札幌市民として情報の力でよりよい未来を創る提案について考えている。

【持続可能性と未来構想】

未来志向に向かう問い

札幌市の公共交通の課題を、情報通信技術の力でどのように解決できるのだろうか。

- ・バス運転手の推移
- ・札幌の主な公共交通の一日の利用者数と自動車保有台数
- ・バス利用者と運転手へのインタビュー記録
- ・札幌市公共交通課山本さんへのインタビュー記録

情報産業について、情報の流れや【効率・正確・素早さ】という追究の視点を基に、「情報をどう活用すれば社会がよりよくなるのか」という情報活用の価値に着目し、【発信者・受信者】や【生産者・消費者】などの立場に立ちながら、社会課題を情報通信技術で解決しようとしている。